

学校教育について

町教育委員会の事務局は、学校教育課と生涯学習課で構成されています。
教育委員会および事務局の取り組みをシリーズで掲載します。
今回は学校教育に関する主な取り組みを3つ紹介します。

(1) いきいき益城っ子事業

学習環境や生活環境が急変する小学校および中学校の第1学年の各クラスに、担任を補助する職員を1名ずつ配置し、基本的な生活習慣や学習態度を育成することを目的に、平成14年度から始めました。

今年度は、小規模校の飯野小・津森小（この2校には特別支援教育支援員を新設）を除く5つの小・中学校に計18名を配置しました。



担任と補助教員での授業風景

(2) 特別支援教育支援員の配置

小中学校の普通学級に在籍している児童生徒のうち、LD（学習障がい）やADHD（注意欠陥／多動性障がい）等により学習や生活の面で特別な支援が必要な児童生徒が、約6%程度の割合で存在する可能性があるといわれており、これらの児童生徒に対して、学校として適切な対応が求められています。

特別支援教育とは、障がいのある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた取り組みを支援するという視点に立ち、幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行うものです。

このようなことから、町においても平成20年度から、小中学校の普通学級に在籍する支援の必要な子どもに対して、日常生活や学習活動のサポートを行う特別支援教育支援員の配置を始めました。今年度は、全小中学校に1名ずつ計7名を配置しています。

(3) 外国語指導助手活用事業

児童生徒に生きた英語に接する機会を提供し、英語教育の充実と国際理解教育の推進を図るため、外国語指導助手（現在ジェシタ・マッケンジー先生）を学校に派遣しています。

昨年、学習指導要領の改訂が行われ、小学校においては平成23年度から新教育課程に基づいた教育が全面実施されますが、今年度からその一部を先取りする移行措置が実施されます。そのなかで、小学校5・6年生に外国語活動として週1時間の英語活動が取り入れられます。5・6年生の担任が中心になって進めますが、初めての試みで困難が予想されますので、外国語指導助手（ダミアン・ハント先生）を新たに加え、町内の小学校に派遣し、担任と一緒に授業を進めています。

子どもたちが英語で積極的にコミュニケーションをとり、外国の文化や習慣、考え方等多くのことを学び、異文化の理解を深めることを期待しています。



ジェシタ・マッケンジー先生



ダミアン・ハント先生